

聖書:ダニエル書8章1～27節

説教:幻を秘めておく

はじめに

幻と夢の意味を解き明かす賜物が与えられたダニエルは、まだ少年であった頃に故郷である南王国ユダから補囚という身分でバビロンに連れて来られ、歴代の王たちに仕えるなか賜物が生かされる機会が何度かあり、そのたびごとに幻を鮮やかに解き明かしてきました。よいことばかりではありません。信仰者として忠実に歩もうとしたら、人のねたみから獅子の穴の中に投げ込まれてしまうこともありました。しかし、神に信頼していたダニエルは無事に穴から生還し、それを見た王が神を信じるということも起きました。

6章まではそのようなダニエルの華々しい活躍が記されていたのですが、7章に入るとがらりと印象が変わります。ダニエルは幻を見て顔色が変わるほど動揺してしまう。その幻というのは、大きな力を持った獣が神の聖徒たちを苦しめるけれども、最後は獣が滅ぼされて神の国が建てられるという内容でしたから、そこまで深刻になる必要がない。喜んでよいはずなのです。きょう開いている8章もそうです。1節に「ベルシャツアル王の治世の第三年」のことだつたとありますから、7章の幻を見てから二年経ったときの話しということになります。ここでも彼は幻を見て、病気になってしまう。いったいどうしてこんなことになるのか。ダニエルは何について苦しんでいたのか。ここに神のどのような計画があつたのか。そのことを考えてまいります。

1 幻

1) 解き明かしと歴史的事実

皆さんは8章を読んで、いったいこれは何だろうと思ったでしょう。幻ですから、現実の世界のことを羊とやぎに例えて表現しているのだろうという所まではわかりますが、どんな意味なのかは解説する人がいないとわかりません。ダニエルもわからない。そこで、御使いガブリエルが解き明かしをする。まとめるとこうです。20、21節。「あなたが見た二本の角を持つ雄羊は、メディアとペルシアの王である。毛深い雄やぎはギリシアの王であり、その額にある大きな角はその第一の王である。」

私たちの関心は、幻の内容よりも御使いが語つたことが本当に起きたのかどうかにあります。もし

こんなことは起きなかったというなら、聖書は信じられないことになる。もちろんこのとおりのことが起きました。このときはバビロンの時代ですが、間もなくメディア・ペルシャが起きて、続いてギリシャが力を伸ばしてきます。そのギリシャの国から第一の王が出て来る。これは誰かと言えば、ギリシャのアレクサンダー大王のこと。彼はペルシャを倒し、南はエジプト、東はインドに至るまで勢力を広げる。ところが32歳で病死をしてしまい、その後、国は分裂してしまい、22節で四本の角が生えたという状態になる。ところがそれに続いて横柄で策にたけた一人の王と言われる人物が出て来て、彼は具体的にはこういうことをする。11、12節。「軍の長に並ぶほどになり、彼から常供のささげ物を取り上げた。こうして、その聖所の基はくつがえされた。背きの行いにより、軍勢は常供のささげ物とともにその角に引き渡された。その角は真理を地に投げ捨て、事を行って成功した。」

ここまで詳しいと人物を特定することは難しくない。紀元前170年頃、アンティオコス・エピファネスが、エルサレム神殿を汚し、ユダヤ人を虐殺した。ダニエルがこの幻を見たのが紀元前551年頃ですから、御使いは数百年後に起こることまで語り、すべてそのとおりになった。

2) 終わりのときのこと

ここに一つの疑問が残ります。御使いはこうも言っていた。17節後半。「悟れ、人の子よ。その幻は終わりの時のことである。」いま見たとおり、歴史を振り返ればダニエルが見た幻のとおりのが起きました。であればもうとつくに「終わりの時」が来ているはずです。ところがいまだに終わりの時が来ていません。これはどう考えたらよいのか。

このことはダニエル書だけでなく、聖書を読むときのこころえとして覚えておくとういと思えます。これはちょうどプロジェクターに似ている。光が出ているレンズの近くに小さな紙を置き、そのまま遠くの壁に映すと、手前の紙と壁と両方に絵が映ります。手前の紙は数百年後のこと。遠くの壁に映っているのは終わりの時のこと。聖書はまるでそんなふうにかかれていて、ここもそうで、数百年後に起こること同時に、終わりの時のことも両

方含んでいる。幻とか預言とよばれるものはいつもこの性質を備えています。

2 ダニエル

1) 病気になった

ダニエルはこの幻を見て病気になり寝込んでしまいます。その理由については27節で「それを理解できなかったからである」と説明があります。おかしいですね。16節で「ガブリエルよ、この人にその幻を理解させよ」と言う声があり、ガブリエルも一生懸命説明してくれたはずですが、それでもダニエルは理解できずにずっと苦しむ。ということは理由は一つ。御使いは肝心のダニエルが知りたかったことについては、説明しなかった。だから苦しんだ。いったいそれは何か。

2) 聖所が踏みにじられる

ヒントは13節です。「私は、一人の聖なる者が語っているのを聞いた。すると、もう一人の聖なる者が、その語っている者に言った。『常供のささげ物や、あの荒らす者の背き、そして聖所と軍勢が踏みにじられるという幻は、いつまでのことか。』」

聖なる者は、ダニエルが何を知りたいかがわかっています。それで傍らにいるダニエルに聞こえるようにわざと声高に語っているようなのです。聖所が荒らされたままなのはいつまでのことか。神殿はいつ復興するのか。ダニエルが最も知りたかったのはこのことでした。というのは、ダニエルが補囚となってバビロンに連れて来られた日以来、エルサレムの神殿は荒らされたままなのです。主だったユダヤ人は外国に連れ去られ、神の約束の地であるイスラエルは失われてしまいました。それでもいつか必ず神はイスラエルを回復させてくださるに違いないと信じてきました。それはいつまでなのか。聖なる者は答えます。14節。「二千三百の夕と朝が過ぎるまで。そのとき聖所の正しさが確認される。」

ダニエルはこれを聞いて喜ぶはずなのに、納得できず病気になってしまう。まだ何か足りません。答えを言いましょう。聖所の正しさが確認されるとは言いました。高ぶる者が人の手によらずに砕かれることも言っています。ところが肝心の聖所すなわち神殿がその後どうなるのかについてはいっさい触れていない。7章の幻のときもそうでしたが、二度目に見た幻においても、最も知りたかった答えを知ることができず、苦しみはなおも続くこととなります。

3) 忍耐する

私たちは小さな時から、正しい答えをほかの人よりもすばやく出せる者が優秀であるという基準をたたきこまれて生きてきました。このコロナの騒ぎの中でも、感染者の数が増えていると聞くと、将来どうなるのか、その答えを早く知りたいとますます思ってくる。例えばイソジンがよいと誰かが言えば、その日のうちにイソジンが店から全部なくなるのは、そんな不安の裏返しとも言えます。正しい答えが見つかるまで忍耐するというのはなかなか難しい。

ダニエルはどうだったのか。彼が最も知りたいと願ったエルサレム神殿の復興についてその答えを教えられたのは、やっと9章になってからで、補囚として連れて来られてから数えれば66年経ってからのでした。どうしてそこまで待たされるのか。

3 神

1) 仲介者モーセを立てるように

その理由を考えるために、ダニエルと共通しているモーセを取り上げたいと思います。エジプトに住むイスラエルの民たちの叫びを神が聞かれたとき、神はアブラハムとの契約を思い起こし、モーセを呼び出してエジプトに遣わすことにします。そのとモーセは80歳。二つのことを考えます。なぜ80歳だったのか。なぜモーセを遣わすのか。彼が40歳の時、イスラエル人を救おうとして人を殺してしまい、同胞からもファラオからも追われる身となってしゅうとイテロの所に転がり込む。それから

40年経って初めて神に呼び出されます。なぜそんなに待たされるのか。40歳の時はまだ未熟で荒削りだったのです。イテロの所で忍耐しながら羊飼いとなって練られて神のご用に役立つ者となった。その期間が40年だった。では神はなぜわざわざモーセを立てるのか。神は、イスラエルの民たちが罪を犯したときのことを考えています。罪を犯したとき、もしそこに神と民との間に立って仲介する者がいなければ、神はイスラエルを滅ぼさなければなりません。そうならないように、神はあらかじめ仲介者としてモーセを立てる。実際にモーセはそうしていくわけです。

2) 仲介者ダニエルを立てるために

ダニエルも同じです。イスラエルが神に逆らって罪を犯し、バビロンに補囚として連れて行かれていっても、神はアブラハムとの契約を忘れない。

必ず回復させようとする。エジプト脱出のときモーセが立てられたように、今回も仲介者が必要となる。それがダニエルだった。ではどうして66年間も待たされるのか。これもモーセと同じ。若きダニエルは確かに能力と賜物はすぐれていたけれど、まだ荒削りで未熟だった。でも苦しみの中で忍耐しながら練られていったとき、やがて彼は神とイスラエルの間に立って仲介者としての祈りをする者に変えられていく。そのための66年間だったのです。

3) 幻を秘めながら歩む

答えを知らされず、何年も忍耐させられ、挙げ句の果てにあなたの忍耐には何も意味がない言われたらどうなるでしょう。もしそうであるなら、イエスが私たちの罪に忍耐してくださったことは無駄だったことになります。イエスの十字架の死にはなんの意味もなかったことになります。もちそんなはずはない。イエスの忍耐と死は無駄のように見えたけれど、復活されたイエスを見たときに大きな意味があることを教えられます。

ダニエルは答えを知らされなかったことで苦しみました。でも、そのことでみこころにかなう備えをするという大きな意味があった。であれば私たちも同じではないか。コロナのことで先が見えず、いつまで苦しむのかと誰もがその答えを知りません。でも、このような時間を通して私たちは、神の救いのご計画のために、備えの時を過ごしているのではないか。

そこに目を留めながら歩んでいきたいと願います。